

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2173300043		
法人名	有限会社 しましまハウス		
事業所名	しましまハウス宮川		
所在地	飛騨市宮川町巣之内63		
自己評価作成日	令和元年9月30日	評価結果市町村受理日	令和元年11月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kairikensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2173300043-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和元年10月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設内では利用者一人一人の生活の実態を本人の過去の生活の延長線上に置き、連続性の確保に努めている。
利用者一人一人の残された能力が充分発揮できるよう、毎日の体操やドリルでの脳トレ等を通じて。職員と利用者が同じ空間・目線で和気あいあいと協力しながら、豊かな自然の中で安全・安心な生活が営めるよう努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、自然豊かな風情あふれる山間地にあり、直下にはJR高山線、その先に清流、宮川が流れている。利用者は、生まれ育った馴染みの地で、日々穏やかに、笑顔満面で生き生きと暮らしている。利用者の笑顔が連鎖し、介助者のモチベーションをも引き出し、事業所全体の元気の源になっている。また、職員は体操や脳トレで、利用者一人ひとりの能力を維持・発揮できるよう支援したり、2匹の子猫をもらい受け、アニマルセラピーも取り入れながら、利用者の笑顔を引き出している。職員同士の連帯意識も強く、互いに協力し合いながら、利用者が安心して暮らせるよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	生れ育った地域の思い出・生い立ちを考慮しながら、残存能力を引き出し、残された余生を楽しく過ごしてもらえるよう理念を共有し、日々の介護の実践に努めている。	管理者と職員は、日々理念の意義を意識しながら実践につなげている。利用者が住み慣れた地域の中で、持てる能力を発揮しながら、楽しく穏やかに、笑顔の絶えない暮らしを送れるよう支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の衰退は激しいが、事業所の中だけで生活は完結するものではないという認識のもと、地域との交流・関係性を模索しながら構築に努めている。	職員の多くが、地元住民であり、区長や民生委員は良き協力者である。利用者は、ゲートボールを楽しむ地域の高齢者と交流したり、地域の祭りでは、ホームに神輿が廻ってくる。小学校の運動会や文化祭にも出かけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎日のケアの中で認知症の方々の支援には実績を積んできているが、その実践経験を地域の高齢者や家族の方々に還元するまでには至っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には利用者家族・行政・地域の方々・駐在所の方へ出席していただき、事業所の方針や利用者の状況等を報告し、また出席者の方の意見を伺い、事業所の運営に活かしている。	運営推進会議は、年に3回開催し、利用者・家族や消防署、駐在所員も参加している。会議では、事業所の実情を報告しながら、防災に関するスライド上映も行っている。災害時の連携や地域の協力のあり方などで意見を交わし、運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議等で市の担当者に参加していただき、事業所の実績や取り組みを報告したり、あるいは課題の解決に共に取り組むよう協力関係の構築に努めている。	運営推進会議には、市役所と振興事務所の担当者が出席し、運営の実情を報告している。災害時の協力体制やホームがハザードマップ危険区域に近い事から、避難時についての助言も得ている。市主催の研修会や会議にも出席し、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ここ2～3年の中心課題として捉え、日々の介護の中で拘束に当たらないかどうか、細部に渡って検証し身体拘束の撲滅に努めている。	身体拘束等適正化委員会を定期に開催し、拘束のないケアを実践している。過去の事例を検証し、介護力で補うことを基本として実践しながら、身体拘束の定義「スリーロック」についても学んでいる。日中、玄関の施錠は行わず、見守りで対応をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束を含めて様々な虐待の内容を検証し、自分達が行っている介護行為が虐待に繋がらないか話し合い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在のところ利用者の家族構成はしっかりしているため、自立支援事業や成年後見制度についての必要性は低いですが、将来のため機会があれば受講したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者の入所の際は、色々な状況を勘察し細部に至るまで説明しているが、理解されていない点もあるため、機会機会に不安の解消に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会の際、あるいはその他の機会に家族の要望や意見を引き出すように努め、事業所の運営に反映できるよう努めている。	家族からの意見や要望は、面会時や運営推進会議で聴いている。受診時の支援についてや、利用者の明るい表情が増えたことは、アンケートでも高い評価を得ている。遠方に住む家族には、ホーム便りと電話で意思の疎通を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフの働く意識や質の向上を図るため、現場で直接介護に関わっているスタッフの意見や提案の把握に努めている。	管理者は、日々の業務やミーティングの際に、職員から意見や提案を聴いている。職員の信頼関係は良好であり、スキルアップや職場環境の改善について話し合っている。	職員の介護力を活かすため、さらにスキルアップを目指した学習会を、定期的実施されることに期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務の継続性と質の向上を図るため、職員の勤務条件や環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のケアの質やスキル向上のために、日常の介護に支障をきたさない範囲で、内外の研修を受けられる機会の確保に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流や連携は必要であるという認識は持っているが、現段階では中々その機会を得る事は少ない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談から利用に至るまでの初期段階では、家族との相談は勿論、可能なら本人と向き合い本人の気持ちを十分に聞き出し、関係性の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	同じように本人と家族の間に考え方の違いがないかしっかりと聞き出し、良好な関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族と利用者、施設にとっても初期対応が重要であるという認識のもと、サービスの調整を行うなどしてから、施設に馴染めるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「介護する側」「介護される側」という縦の関係を脱し、一緒に過ごし喜怒哀楽を共にするという感覚で日常の介護に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を大切に、同じように一方的な縦の関係ではなく家族と共に本人を支えるという協調性を高めていくよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまでに培ってきた人間関係・社会との関係を把握し、その関係が施設に入っても維持できるように努めている。	馴染みの知人や家族が途切れなく訪れている。小学校のイベントに出かけたり、桜見物や紅葉狩り、バラ園等へ見学に出かけている。家族の協力を得て、一時帰宅、外泊、墓参りへも出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の利用者同士の関係を把握し、利用者が孤立しないよう共に暮らしていくという認識のもと、より良い生活ができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当施設でサービスが終了し他施設や自宅に戻っても、暫くの間は相談や支援に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人一人の思いや希望・意向の把握に努めスタッフの間で意見交換を行い情報の共有化に努め、利用者本位の介護を行っている。	利用者との日々の会話や行動から、思いを把握している。意思表示が困難な人は、声かけや笑顔の反応から汲み取っている。本人の習慣や希望する事、プライバシーへの拘り等を受け止め、本人本位の暮らし方を支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人が安心して残された能力を発揮できるよう、これまでの生活歴や家族との関係を捉え、プライバシーに配慮して日々の介護に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人の生活の流れの把握に努め、その人の心身状態・有する能力に気づき、全体的な介護に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャーを中心としたアセスメントとモニタリングを繰り返し、スタッフとの意見交換を行い、同時に、本人や家族の意見・要望を取り入れながら臨機応変なケアプランの作成に努めている。	本人の希望を聞き、職員の意見、支援経過に評価を加え、健康で自立した生活が送れるよう計画作りを行っている。家族の意向は面会時に聴き取り、遠方の家族には書面で確認し、柔軟に見直しも行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践で気づいたことを経過記録や個人ノートに記入し、情報の共有化を行い介護の実践と計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者家族や本人の要望がある場合、一人一人の要望に応じ、通院の送迎や外出等に柔軟に対応している。また、出張理容や出張歯科も利用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	多様な地域資源を把握し利用者がそれを活用し、豊かな生活ができるよう支援に努めている。小学校の運動会や文化祭、またバラ園の見学など様々な楽しみを支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の同意を得て当施設の協力医療機関やかかりつけ医、希望する医療機関への受診に努めている。	かかりつけ医を個々に継続している。通院は家族が担うが、都合によっては職員が代行し、診察結果及び服薬管理は家族と共有している。急変時にも、適切な医療を受けられるよう、職員の対応手順を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	本人と最も身近にいる介護職員は、日々の利用者の変化や異常に気づき、その内容を管理者やケアマネに連絡し、医療機関への協働連携に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した際、安心して治療が受けられるよう、またできるだけ早期に退院ができるよう、家族等と相談しながら本人の情報提供やケアについての話し合いを医療機関と行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当施設では看取り介護は行っていないため、終末期・重度化へ至る過程のケアについては、家族や医療機関等と連携を図りながら取り組む事について、家族にも協力を得るよう努めている。	重度化により日常生活が困難な場合は、家族と連携を図り、他の機関への移転を選択できるよう支援している。また、看取り介護は行っていない為、介護度3の認定時には、特別養護老人施設への入所申請を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の身体状態の急変や、事故発生時にも適切に対応・行動できるよう、日々の介護の中で訓練や実践に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	最近の多種多様な災害にできるだけ対応できるよう、防災・減災訓練に努めている。しかし、地域の協力体制、備蓄品については不十分である。	防災訓練は、多種多様な災害を想定して実施している。運営推進会議の中でも、消防署から、垂直避難や水平避難、避難所について説明を受けている。過去には、水害による孤立や停電を体験し、自助の限界を認識しており、行政と連携しながら対策を話し合っている。	防災意識は高く、設備を整え、定期訓練も行っている。地域や関係機関との協力体制の具体化に取り組み、備蓄品の充実、職員のさらなる対応力の向上に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スピーチロックを含め一人一人の尊厳やプライバシーの確保に配慮し、実例を挙げながら話し合いに努めている。	職員は、利用者に安心感を与えられるよう、常に笑顔で接している。言葉かけは、ゆっくりと簡潔に、声のトーンにも配慮している。プライバシーの保護については、身体拘束についての適正化検討会の中でも学んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の自己決定権の表出や日常生活の中で、自分の思いや希望が埋もれてしまいがちになるので、意図的に引き出すよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合やスケジュールで日常の介護をするのではなく、利用者一人一人のペースで落ち着いて生活できるよう注意を払っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれは、本人の心地よさや落ち着き、自分としての意識等をもたらすという考えのもと、その支援に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は利用者にとって力の発揮や他の利用者との関係作りとして生活の中で重要な位置にあるという観点から、種々の季節の野菜や食品の提供に努めている。	利用者は、下膳やテーブル拭きなどに関わっている。具の多い味噌汁は、食欲を促しながら水分補給にもつながるよう工夫し、毎食、提供している。職員も一緒に同じ食事を摂り、楽しい会話を交わしながら「頂きます、ご馳走様」を皆で唱和している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリーの過不足や栄養の偏り、水分不足が起こらないよう、一人一人の状態や能力に応じた体調管理に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	スタッフは口腔ケアの必要性を理解し、本人の有する力や習慣を活かしながら口腔ケアの実施に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄、オムツをしない生活ができるよう支援している。足腰の衰えがある方には、室内でのポータブルトイレでの排泄を行い、できるだけ自力排泄ができるよう支援している。	できる限り失禁を減らして、トイレで排泄ができるよう声かけし、排泄の自立を支援している。立位保持が難しい場合は、ポータブルトイレを利用している。夜間は利用者の状態によっては、コールマットを備え、安全な排泄を支援し、オムツ用品の削減にもつなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	高齢者は便秘になりやすいため、一人一人の便秘の原因を探りながら、消化の良い食事や水分補給に気を付け、運動等を通して腸の働きを良くして便秘の予防や便秘症の改善に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	どうしても施設の決めた曜日や時間帯に合わせがちであるが、一人一人の生活習慣やその時々希望を大切に支援に努めている。	入浴日や時間帯を設定しているが、その日の利用者の気分や体調に合わせて柔軟に変更し、清拭や足浴等、代替で支援している。足浴では、水虫治癒にも成果を上げている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日の流れの中で一人一人の生活のペースや体調に合わせ必要な休息や睡眠がとれるよう支援している。できるだけ、日中の活動性を上げ、夜は気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフは利用者一人一人が服用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、飲み忘れや誤薬を防ぐため都度手渡しを励行している。また、内容が変更する場合は、受診ノートを活用し全員で確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の暮らしが楽しみや張り合いのあるものになるよう、その人の持っている能力を最大限に活かして自分らしく暮らせるよう、一人一人に合った役割や楽しみを支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人が施設の中だけで過ごさずに、できるだけ外出できるよう支援している。その人らしい暮らしを保ち、本人の意欲や自立を保つため、普段は行けない場所や本人の希望を把握し、家族や地域の人々の協力を頂き、外出の支援をしている。	日常は、広い庭で外気に触れている。近くの神社に詣でたり、地域のイベントにも出かけている。年間行事として、四季折々の花見や外食、近郊へのドライブがある。普段、行けない所へは、家族の協力を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者一人一人はお金の大切さは十分理解されているが、施設内での所持は行っていない。ただ、外出した際は自分で買い物ができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話は家族や大切な人との関係を築く大切な手段であるという認識は持っており、手紙を書ける方には思いを綴ってもらったり、家族や親せきからの電話を取り次ぐ事も行っており、心の安定に繋がっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の生活空間が利用者にとって居心地よく過ごせるよう生活感や季節感を取り入れ、利用者にとって不快や混乱を招くような(五感)を刺激するような状況を作らないよう努めている。	共用の間は食堂を兼ね、余裕の空間がある。要所に、利用者の折り紙作品や塗り絵、写真を掲示し、2階にはソファを設置し、観葉植物、本棚がある。水槽で金魚を飼い、仲間入りした子猫に癒されながら、居心地良く過ごせる空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	集団での生活は落ち着かず、特に認知症の人はそのことが不安やストレスの原因となる事がある。趣味を楽しんだり、一人になる事ができる環境に配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同生活の中ではプライバシーを守る意味で個室の意味は大きい。馴染みの物を活かしたりして居心地よく安心してその人らしく暮らせるよう支援している。	居室には、障子張りの部屋もあり、ぬいぐるみや裁縫道具、テレビ等を持ち込み、好みに配置している。利用者の目線には、予定表やカレンダー、家族の写真を飾り、落ち着けるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の身体機能の状態に合わせた危険防止や、自分の力で動ける事を支えるための個別の道具や工夫に努め、自立した生活が送れるように支援している。		